
草原の木

N澤巧 T 郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

草原の木

【Zコード】

Z7289D

【作者名】

澤巧一郎

【あらすじ】

一人の少年が、草原の中にたたずむ一本の木に出会った。

地平線の向こうまで続く緑の草原
ひつそりと寂しげな木を見つけた。

「もしもし、ちよつといこですか？」

「すー、すー」

びつやひびつてこるみたいです。

グ〜ツ

「せうこえぱお面だ。じ飯にじよひ」

木の横にひよじと座って、ぶら下げたかばんから木の皮で包まれたお弁当を取り出した。

中には大きなおむすびが2個と、3枚の白いたくあんが入れられていた。

はぐはべ

ゆうべつと動く白い雲と、わいちいと鳴る葉っぱを見ていた。

ぼりぼり

体の中から全身に浸透していくよつ、草原の匂いは駆け抜けた。
陽だまりが午後を告げていた。

「ん、ん～～～」

いつぱいに伸びをして田が覚めた。

「よく眠っていたね。実に気持ちよさひひ」

ぼ～っとしたふくよかな感覚になりながら

「僕が来たときは、あなたが眠つてたんだよ」

と、教えてあげた。

「あつはつは。そつだつたか、まつたく氣づかなかつたよ。なにせ、「こ」は気持ちがいいもんでね」

やわらかい風が相変わらず僕のほっぺたを撫でていく。

「ひとりでつまらないんじゃないの?おもしろい?」

「あつはつは。君はおもしろい事を言つね。私が一人とは。あつはつはつは」

少しだけすつきりしてきた。

「ひとりじゃないの?こんなに広いといふなのに?他に誰がいるの?」

「いいかい。確かに私は一人に見えるかもしれない。だけどね。見

えるものだけで判断してはいけないよ。それは世界を狭くする」と
だから。」

大空を1羽の鳥が飛んでいた。

「ふーん。そつか。……そつか」

立ち上がりつて木をぎゅっと抱きしめた。
ぎゅうぎゅうして少しうれしかった。

「ひとりじゃない」

「やべ。世界は支えあってできてるんだよ」

僕はなにか言おうとしたけど、今の気持ちを言葉にすることができ
なかつた。

そんな僕を知つてか知らずか

「なんでも言葉にしようとなんてしなくていいんだ。自分の気持ち
が、一番相手に伝わる表現をすればいい」

と、草原にたたずむ木は言った。

れつれつよつよつも強く、木の皮が皮膚にめりこみながらも抱きしめた。

「あみは今、どんな話上手よつも、多くを語つていろよ」

「僕は行くよ。とても大事なことを教えてくれてありがと。走り
たい気分になつたよ」

ふこに今までにはない強い風が吹いた。

「ぱこぱー

手を振つて別れを告げる。

孤独な冒険者はどんどん走つて小さくなつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7289d/>

草原の木

2011年1月23日14時32分発行